



タイトル

一次元の挿し木

著者

松下龍之介

PN

Rika

コメント

2025年第23回「このミステリーがすごい！」大賞の文庫グランプリ受賞作だったので読んでみましたが、時間が経つのも忘れるくらいに大変おもしろかったです。テンポの良いストーリー展開で文章も読みやすく、二転三転するミステリー小説でした。



タイトル

世界でいちばん透きとおった物語

著者

杉井 光

PN

ひよの

コメント

まだこの方を読んでいないから、2の方でも同じように驚きがあるかは分からないし、同じような紙の媒体でこそその演出(?)をしている作家さんはいるけれど、文章がその驚きのためのフラグになっているとは思わず、全て読み終えた後、ひたすら「なるほど、これはすごい」となる本はそうそうにないと思った。近年、映像化できないと言われたものが映画化した作品があったけど、これは絶対、映像化できないものになっていたし、電子書籍も無価値なものになってしまうから、必ず「紙」で読んでもらいたい。紙でこそ価値あるものです！



タイトル

月とアマリス

著者

町田そのこ

PN

はいたん

コメント

私たちがニュースを観て「自業自得」だと切り捨ててしまっている人たちの物語。愛を求めるのに愛されない。生きるのが下手な人々…。

凄く辛いのに読む手が止まらない。読後の余韻に浸った後は、周りの人にそっと手を差し伸べたくなる一冊。作者の優しさに触れてみませんか？



タイトル

あрика

著者

瀬尾まいこ

PN

Asa

コメント

この作品の根底にあるのは「人を愛する」という感情。でもその愛の向かう先は必ずしも「家族」「恋人」「友人」など一言で表すことのできる相手というわけではない。むしろ名前が簡単につけられないからこそ大切にしたいという思いも生まれるし、関係性を表す言葉があるからこそ、愛を向けないといけないという思い込みに苦しむこともある。生きるうえで自分が大切にしたい相手は誰なのか、考え続けたい。



タイトル

知りたいこと図鑑

著者

みっけ

PN

ひまわり

コメント

世の中にはたくさんの言葉が満ち溢れている、そう感じる事が出来る本です。私達の毎日の中ですぐそばにある様々なものに名前があり、私達は目にし、耳にし、記憶に残しているはずの言葉も、改めて本書のように体系立ててやさしいイラストで語られると、まるで宝石のようにキラキラ輝いて見えてきます。私達のまわりでキラキラ輝く様々な言葉に本書で出逢ってみてください。



タイトル

人魚が逃げた

著者

青山美智子

PN

れんこん

コメント

東京の銀座を舞台に展開していく。タイトル通り人魚が銀座で逃げてしまう中で銀座で悩んでいる人々が出会って前向きになれる。きっと読者も共感したり、勇気づけられるはず。短編集のような感覚で飽きずに読めて、それでも全てつながっているからどこがつながっているか探しながら続けてよめる。最後の章で謎も解明されて満足感のある一冊。



タイトル

深淵のテレパス

著者

上條一輝

PN

ハコノア

コメント

登場人物やストーリー展開がとても面白く、一気に最後まで読んでしまいました。翌日には続編があると知り、それも一日で読破してしまうほどハマった作品です。今まで読んだホラー小説の中で一番好きなので、ぜひ多くの人に読んでほしい一冊です。



タイトル

六人の嘘つきな大学生

著者

浅倉秋成

PN

ゆうぱぱ

コメント

最先端の優良IT企業の最終面接に臨んだ6人の学生にまつわる話ですが、誰かわからない「犯人」によるそれぞれの就活生の闇の部分の描写と犯人さがしの展開の描写が秀逸な作品で一気に読んでしまいました。



タイトル

宙わたる教室

著者

伊与原新

PN

カフェラテ

コメント

第70回青少年読書感想文全国コンクール課題図書(高等学校の部)に選ばれた小説。昨年、NHKでドラマ化されたのも見たが毎回ワクワクドキドキしたのを覚えている。直木賞に選ばれると思っていたので本当に選ばれたのはすごくうれしかった。1つの事を皆で取り組むのは楽しい事ばかりではないけどあきらめないで続ける事は大事だと教えてくれた1冊。

過疎ビジネス



タイトル

過疎ビジネス

著者

横山勲

PN

安芸新報

コメント

取材にはしっかりとした裏取りがあり、関係者が実名で次々に登場することで臨場感も漂い、あっという間に読み終えた。多くの人が思考停止している世の中でずる賢い人が蔓延するという現代をよく伝えている。



タイトル

存在のすべてを

著者

塩田武士

PN

サンディ

コメント

白くてシンプルな装丁と印象的なタイトル。まだ幼くして誘拐された少年亮君の描写は物語を清潔にしているようでした。何が彼の身に起こっていたのか、読み進めるほどに引き込まれました。段々判明してくる人々は、不気味さの中、意外にも柔らかい光のようでした。特に男の子のいる親にジーンと来る結末だと思いました。



タイトル

陰陽師と天狗眼

著者

歌峰由子

PN

ジョンママ

コメント

広島を舞台とした”もののけモノ”です。登場人物のそれぞれのキャラも良いのですが、訪れたことのある温泉や山の風景が映像として浮かび、役所のおじさん達の話すソウル・ランゲージ「広島弁」と相まって自分も仲間になって物語に入っている気分になれます。だからとても楽しい!! 作中で混み入った出来事もありますが、読後はほんわりとなれます。



タイトル

カナリア外来へようこそ

著者

仙川環

PN

HlrOE

コメント

人の心の痛み、体の痛みも他人にはわからない。
私もここ何年かいろいろつらいことがありました。保泉医師とレン看護師の寄り添う。当事者と一緒になって世の中を変えていく。泣きそうになりながら読みました。少し心が上向きになったように思います。



タイトル

哲学史入門I: 古代ギリシアから ルネサンスまで

著者

千葉雅也 ほか

PN

イソギンチャ君

コメント

プラトンやアリストテレス、無知の知といった歴史用語をなんとなく聞いたことはあるけれど、内容まで深くは知らないという方も多いのではないのでしょうか。本書は超一流の研究者への対談形式で構成されており、難解な概念にも自然と興味が湧きました。初心者から本格的に勉強してみたい方までおすすめです。



タイトル

獣の奏者

著者

上橋菜穂子

PN

まい

コメント

とにかくこの作品に吸いこまれます。
人間のきれいさ、ざんこくさなどが伝
わってきて、自分がその場にいるような
気持ちにさせてくれる本です。
小学生の時に出会い、20才を超えている
今でも、なにかあると戻ってきてほしい
です。
悩みごとがある時にもおすすめです。



タイトル

35年目の ラブレター

著者

小倉孝保

PN

ぴよまる

コメント

2025年(今年)映画化もされました。
読み書きができない夫が、長年支えてく
れた妻にラブレターを書くために夜間
学校に通い、読み書きを習得していく実
話が元となったお話です。 この方が夜
間学校に通い始めたのは64歳！
このお話を読んで、何を始めるにも遅す
ぎるとはないんだと感じました。
とても素敵なお話です！



タイトル

リボルバー

著者

原田マハ

PN

ぴー

コメント

原田マハさんの「リボルバー」、ワクワク感が止まらない一冊！フィクションでありながら、もしかしたら事実なのでは？

と思わせる展開はさすがの一言。これがマハさんの精密な美術史に基づいた小説です。ゴッホ展を觀賞するのがますます楽しみになりました。



タイトル

二人一組になってください

著者

木爾チレン

PN

華夢

コメント

当時タイトルと女子高生たちの卒業式直前のデスゲームというワードにひかれて本書を購入。自分自身も女子高出身ということもあり、共感できることも多く、久しぶりに数日で読み終えた。世界観に没頭できてしまう久しぶりの体験だった。

表現がストレートな部分もあるため好みに分かれるかもしれないが、ぜひ1度読んでみて欲しい。



タイトル

赤と青と エスキース

著者

青山美智子

スインチ

コメント

一気に幸福で満たされる、最高の物語。
これより幸せなミステリーがあるなら教えてくれ。
赤と青のあだ名を持つ男女が描かれた1枚の絵画を巡る連作短編。
エスキースとは下絵、人生のエスキースはまだまだ成長できることを実感。



タイトル

あの夏をラムネの 瓶にとじ込めて

著者

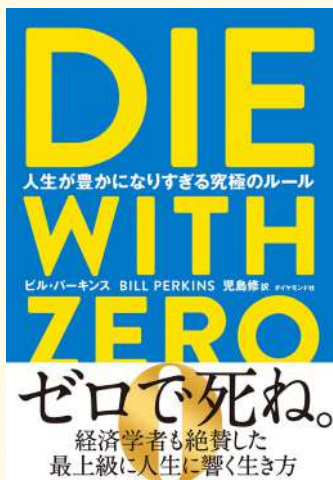
高梨 愉人

PN

庵神

コメント

この本は私に勇気をあたえてくれました。
人を想うとはどういうことなのか。
その想いをうろあけてしまうのはとても不安でいっぱいです。でもうじうじしていたら、次いつ会えそかわからない！
と言われた気がして行動に移して無事
幸せです!!
ぜひ恋する女の子のみんなに読んでほしいです!!



タイトル

DIE WITH ZERO

著者

ビル・パーキンス

PN

なべやまくん

コメント

お金は貯めてばかりではなく「今」のために使う！「自己投資」！

うっすらと思ってはいた事が、この本を読んだおかげでしっかりと再認識できた。

自分のためだけでなく家族、友人に対しても同様。自身の最大のピークは今なんだと思い込むことができれば、仕事、プライベートに対して最大のパフォーマンスを出すことができる。



タイトル

**月とコーヒー
デミタス**

著者

吉田篤弘

PN

もとはる

コメント

6年ぶりに出版された「月とコーヒー」の続編で、前作と同じように読みやすい短編集です！ 元々、表紙とタイトルが好きで購入した書籍ですが、内容も好みのお話ばかりでほっと温まります。

隙間時間に読み進められる長さなので、カフェなどの待ち時間等でぜひ読んでみてください！

「カンバヤシ珈琲店」という話がおすすめです。(好きな話です)



タイトル

705号室に、 泊まらないでください

著者

塔山郁

PN

スマイルメガネ

コメント

呪い、妖異、そして理不尽な恐怖がじわじわと染み込んでくるような内容で、ただのホラーというより、心の奥に何かを残していく《傷》のような物語でした。読み終えた後、ふとした時に、ふいにその場面や感覚がよみがえるのが恐いんです…。



タイトル

おすしがあるひ たびにでた

著者

田中達也

PN

めがね コアラ

コメント

目指すは「おすシティ」。
アイデアあふれる山や砂漠に脱帽!!
さらにダジャレが効いていて思わず吹き出してしまう面白さ。隅々まで楽しめる田中達也ワールドは最高です。



タイトル

生きる言葉

著者

俵万智

晩年ひざ小憎

コメント

「コミュニケーション」って、人それぞれアプローチの仕方が全く違うと思ってました。私の場合は、伝えたいことが相手にきちんと伝わるように、一語一句間違いないように丁寧に伝えることでした。でも、それがすごく難しくて、いつも言葉に詰まっていました。けれど、この本を読んでから、言葉に対するハードルが少しだけ下がり、コミュニケーションの難易度も下がりました。



タイトル

正欲

著者

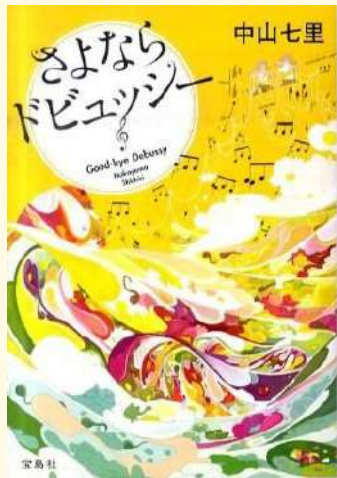
朝井リョウ

PN

晩年ひざ小憎

コメント

この作品を読んでしまったら、もう以前の自分には戻れなくなります。世の中の暗黙のルールや秩序が見事に崩されていく怖さと爽快さを一度に体感できる。こんな読書体験は初めてでした！生涯大切にしていきたい作品です。



中山七里

タイトル

さよなら ドビュッシー

著者

中山七里

PN

ニート志望

コメント

寝る前に少しだけ読もうと思ったら先が
気になって最後まで読んでしまった。
ミステリ好きな人、音楽好きな人、何かに
挫折しそうになってる人、もちろんそう
でない人にもおすすめ。
演奏シーンの一行一行の熱量に圧倒され
る。
Youtubeで作中に出てくる曲を流しながら
読むとさらに楽しい。



タイトル

spring

著者

恩田陸

PN

なおこ

コメント

バレエを全く知らない私でもすんなり話
の中に入りこめました。
バレエの描写は目の前で舞台を見ている
ようで……。バレエは敷居が高い、クラ
シックも苦手と思っていましたが読んで
いるうちに興味が出てきました。
こういう風に新しい扉を開いてくれるの
も読書の楽しみだなあと感じます。



タイトル

生きるぼくら

著者

原田マハ

ぱん屋さん

コメント

話に出てくる場所、風景、食べ物、出来事、そして人。

全てが美しくて温かくて、胸がいっぱいになりました。 人生のように人生につまづいたとき、また読みたい一冊です。 まだまだ知らないたくさんの景色と思い出に会うために、まわりの人たちの温かさに気づけるように、小さな幸せを見落とさないように、生きていきたいなと思いました。



タイトル

にげて さがして

著者

ヨシタケシンスケ

PN

そらまめ

コメント

子ども向けの本かと思いきや大人でも心にひびきました。

時には逃げる車の大切さを教えてくださいます。

我が子はまだこの本のメッセージをまだ理解できない部分も多いですが、いつか何かにつまづいた時には思い出して自分の心を守れると良いなと思います。